



『^{から}韓泊^{とまり}周辺』をたずねて

韓泊 瀬戸内海の水運は古くから発達したが、特に奈良時代に行基によって摂津の国から播磨にかけて5か所の港が建設されたと伝えられている。真偽は不明だが、河尻（尼崎）・大輪田（神戸）・魚住（明石）・韓（姫路）・檀生（室津）の5港がこれと伝える。姫路にあった韓泊は、的形町付近であったとされるが、的形町内の的形とも、福泊ともいわれ、所在地は確定されていない。しかし周りの土地は歴史の古さを示す、いろいろの文化財がある。今、ここを「韓泊周辺」と呼んで、これらの文化財を訪ねてみよう。

〔大塩町〕

天満神社 天文2年（1533）現在地に創建したと伝える。境内には橋掛りのある立派な能舞台がある。拝殿の四十七土絵馬や天神御座船の模型も知られる。10月14日の獅子舞は豪壮なもの。

延命地藏 日笠山から曾根に通じる道の登り口にある。

大塩の石仏 穴虫池そばの墓所に文化2年（1805）の釈迦像がある。

明泉寺の宝篋印塔 裏庭に康応元年（1389）の銘入のものがある。

清勝寺の五輪塔 寺は播磨西国31番札所、墓地に古い五輪があり、火・地輪に梵字がある。寺の西方の墓地には飾磨から運んで来たと言う大きな石地藏が置いてある。

〔的形町〕

行基が鼻 泊山の南端が沖合に突き出ているところ。

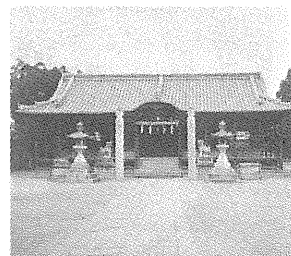
泊山 古名を「加良止麻利山（韓泊山）」と言い、山腹に梅山古墳（姫が懐）がある。

住吉神社 天永3年（1112）創建と伝える。海の神を祀る。

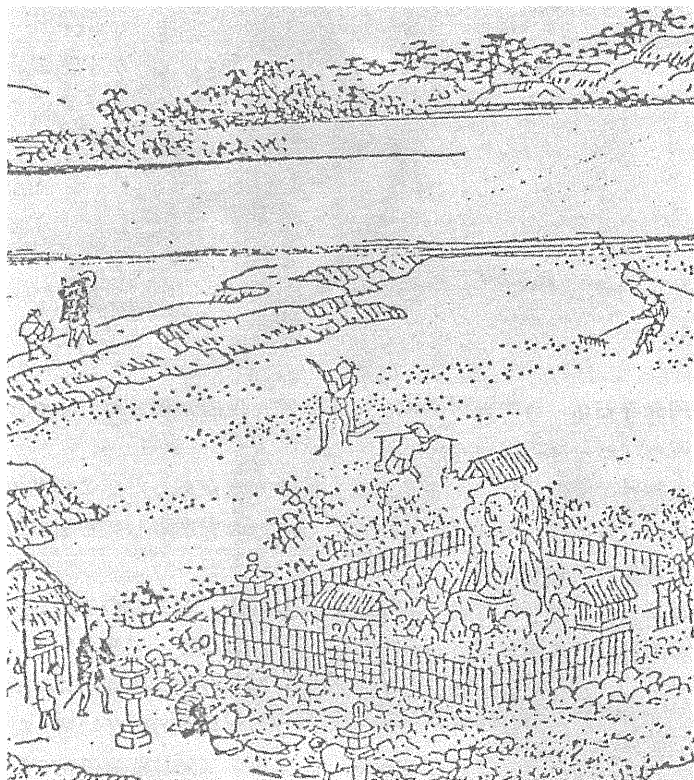
海岳寺 行基が開いた寺と伝える。長い石段上に鐘楼門がある。寺の東100mの墓地に磨崖仏が二体ある。

空頼坊の墓 江戸時代の三大山法師の一人と伝え、墓は五輪塔。

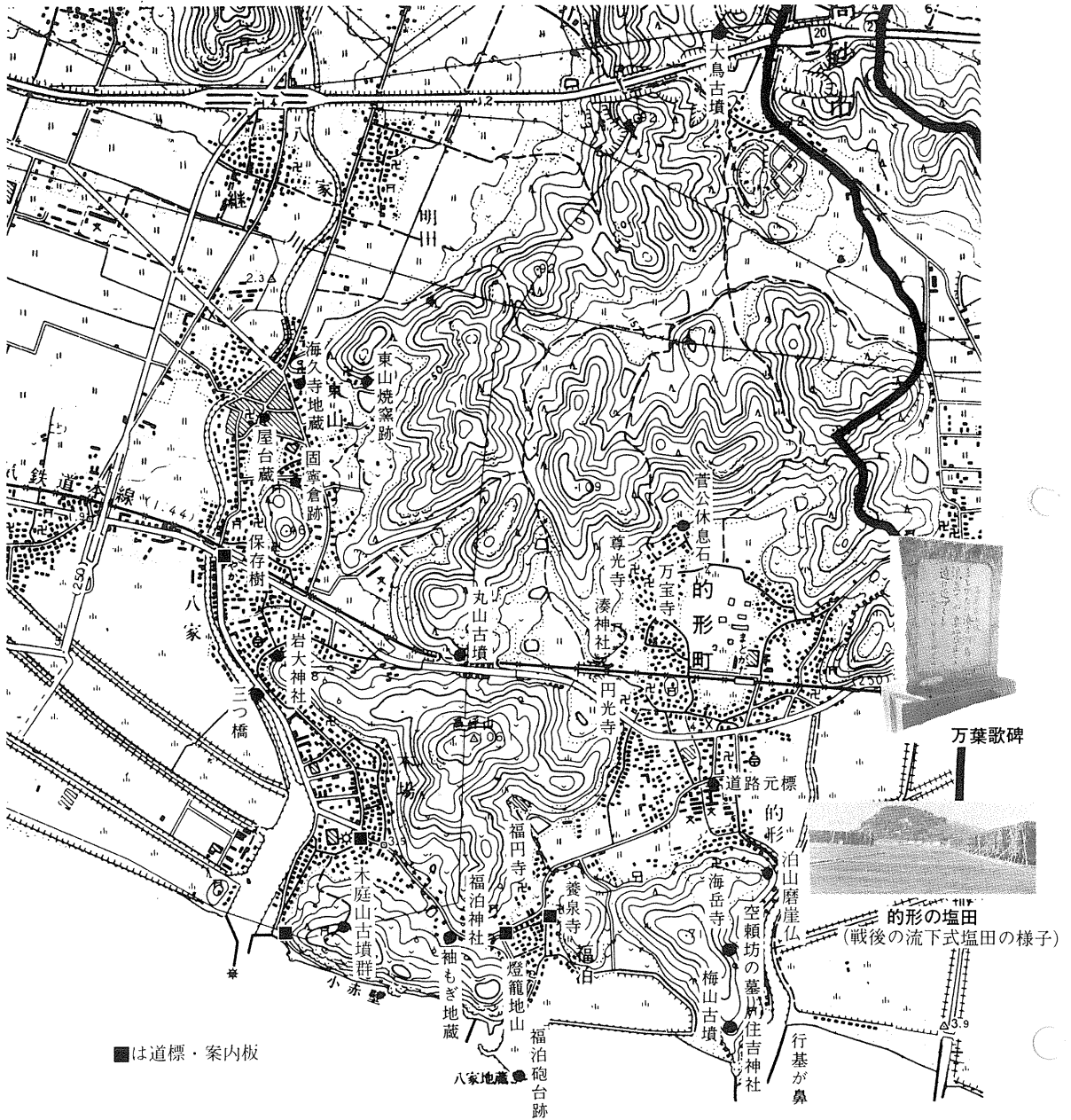
八家地藏 鎌倉時代の作と言われる。高さ1.9m。現在はお堂が建っているが、もとは右図のようであった。図の遠景には入浜塩田の作業風景が描かれている。



大塩の天満神社



八家地藏（『播州名所巡覧図絵』より）



円光寺石仏 寺の前の石棺仏は阿弥陀と地蔵が彫られ、永和3年（1377）の年号が刻まれている。境内は的形城のあった所。

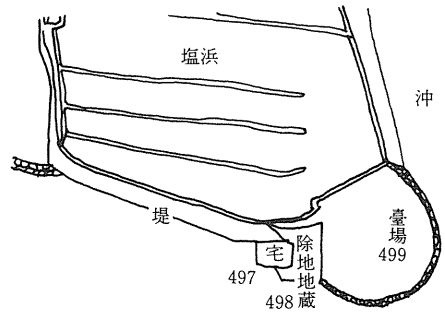
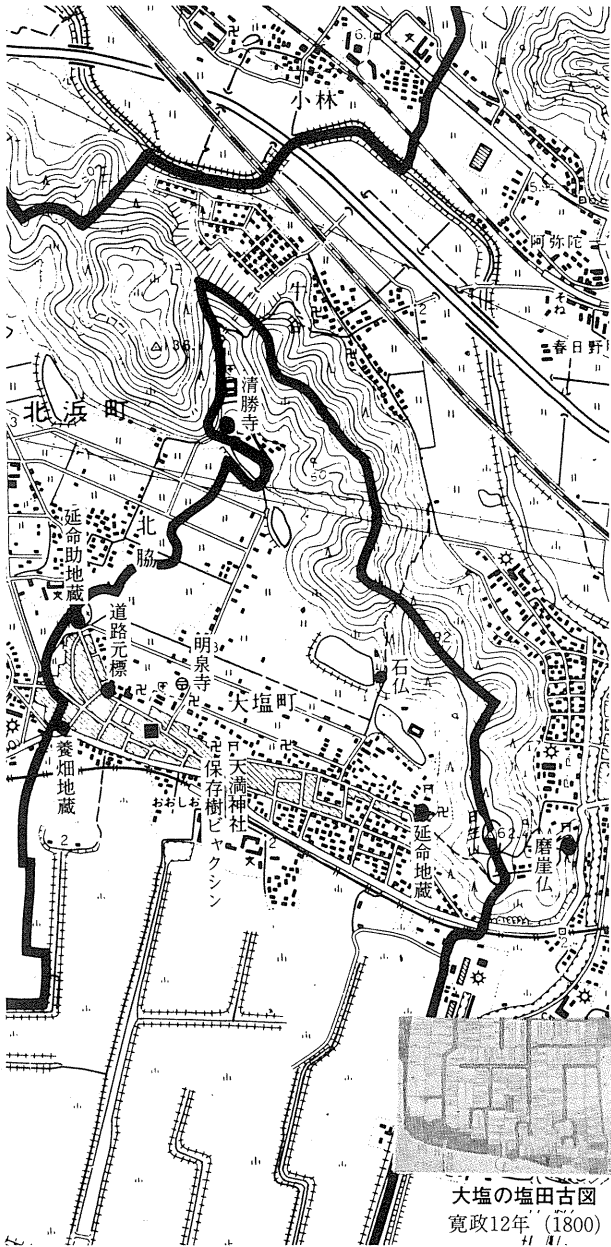
湊神社 境内に「ともづなの松」と呼ぶ松があった。この名から付近がかつて海だったことが偲ばれる。韓泊はこの付近とも言われる。郷土史家としても有名な先代宮司の神栄宣郷氏の建てられた万葉集の歌碑もある。

万宝寺の庭園 元禄期の池泉観賞式の庭園。もとの寺の鐘は、天保2年（1831）の模倣朝鮮鐘で四国の金刀比羅神社の神宮寺にあったものが移って来ていた。現在、市教委へ寄贈されている。

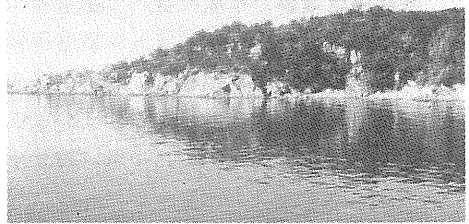


尊光寺の山門 もと河合寸翁の開いた仁寿山校の山門だと伝える。屋根には河合家の雀の紋のついた瓦がのっている。（左の写真）

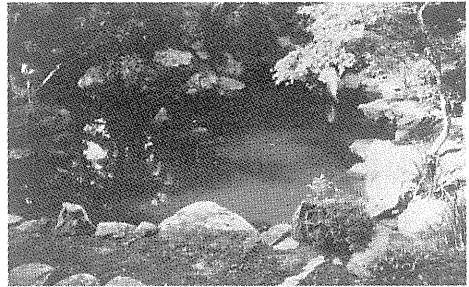
菅公休息石 延喜元年（901）菅原道真が左遷された時、腰をかけ休息した石といわれ、天満神社の御神体としてまつられている。



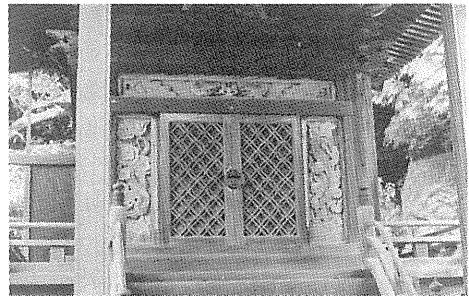
福泊台場の古図 安政年間に姫路藩が築いた砲台跡。八家地蔵の隣、今その姿はない。



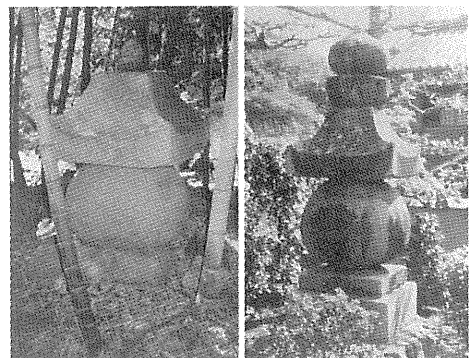
行基が鼻



万宝寺の庭園



福泊神社本殿



福円寺の五輪塔

養泉寺の五輪塔

福円寺の石造品 本堂左手に庭の池より出土したという石棺材が置かれている。裏庭の竹やぶの中に水輪の径75cmの古い五輪塔、裏山には板石に刻まれた不動三尊像がある。

養泉寺の五輪塔 本堂の前庭に燈籠地山より運れて来たという古い五輪塔があり、裏庭にも一基ある。

福泊港 行基の定めたという撰播五泊の一つ、韓泊がこことも考えられている。

福泊神社 本殿が室町時代の古建築とみられ、内部の狛犬も土製で古いもの。境内に磨崖仏があったが、風化して今は分らない。クロガネモチ・タブノキは保存樹。

若宮神社 境内で良寛が野宿したと伝える。

〔木場〕

袖もぎ地蔵 家形石棺の蓋石に地蔵仏と貞治3年（1364）の年号が彫ってある。この前の坂で転んだ人が厄払いのために着物の袖をちぎってまつたところから、その名がついたと言われる。

燈籠地山 福泊に島を築き港を開いた安東平左衛門蓮生が、乾元元年（1302）この山上に燈火をともしたという。のち、長尾通朝の築いた福泊城となった。

小赤壁 瀬戸内海に面して奇岩・奇石が絶壁をつくる。中国の揚子江にある赤壁に似ているので、こう呼ばれる。海岸に遊歩道が設けられている。

木庭山古墳群 木庭神社の本殿近くの参道脇に3基の横穴石室があらわれている。付近にもと数基の円墳があり、明治30年にその内の1基を中国人類学会が発掘、遺骨・刀剣・鏡・曲玉が出土したことが『兵庫県飾磨郡誌』に記されている。

三つ橋 かつて八家川の中央に島を築き、小錦帯橋とも言える三つの反橋を設けていたので、現在一本の橋になってもこの名が残っている。

〔八家〕

岩大神社 山麓にのびた岩盤上の巨岩の前に社がある。永享4年（1432）の創立と伝え、大物主命をまつる。

保存樹 慶徳寺境内のイチョウ・西念寺境内のビャクシンの古木が市指定の保存樹となっている。

〔東山〕

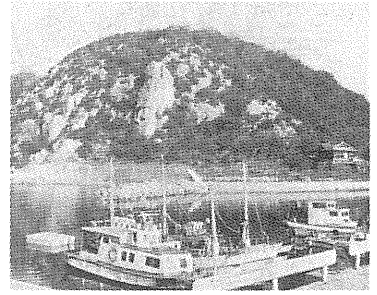
大歳神社の狛犬 本殿前に陶製の狛犬がある。

固寧倉跡 大歳神社の東方の倉庫は、江戸時代ききんに備えて米を貯えた倉の跡で、中に固寧倉の額が保存されている。

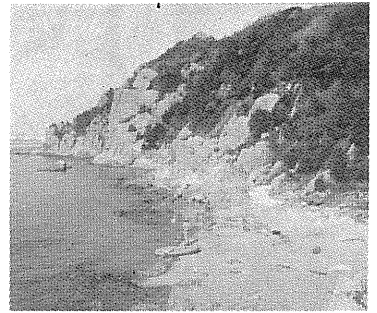
屋台蔵の扉 八双金具や饅頭金具のついた立派なもの。もと姫路城の城門であったと言い伝える。

海久寺の地蔵 寺の前の地蔵堂に等身大の地蔵がある。文化13年（1816）のもの。

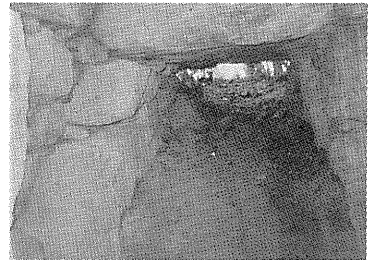
東山焼窯跡 東山焼は安永年間（1772—81）兵庫の木屋が始めたというが場所不明。文政年間（1818—30）の興禅寺山窯の跡がこの場所。のち藩御用窯となり、天保2年（1831）男山に移った。



福泊港と燈籠地山



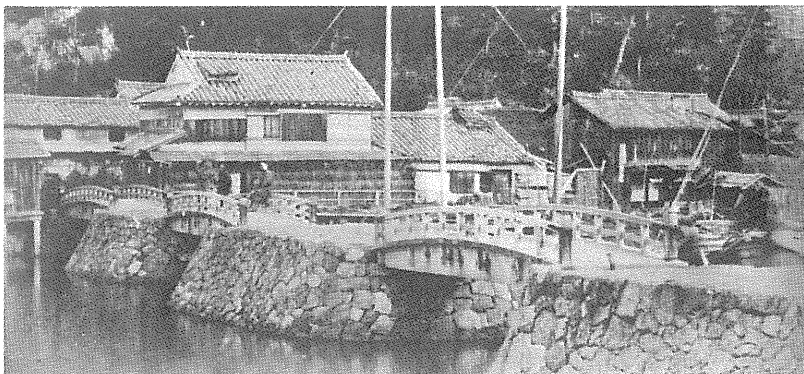
小赤壁



木庭山古墳（石室内部）



窯跡標柱



三つ橋の古い姿（高石市図書館蔵写真より）



海久寺の地蔵